

平成 29 年 6 月 7 日

## 国立大学法人福島大学の 第 2 期中期目標期間に係る業務実績の評価結果について

6 月 6 日に開催された文部科学省国立大学法人評価委員会総会において、第 2 期中期目標期間の業務実績に関する評価結果が確定し、公表されました。については、本学の評価結果の概要等について報告します。

国立大学法人評価委員会では、国立大学法人及び大学共同利用機関法人を対象に、毎年度の業務実績評価と、6 年間の中期目標期間全体の業務運営の実績について調査・分析し、各法人の中期目標の達成状況を評価しています。

今回は、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度～平成 27 年度）を対象に評価が行われ、その結果が確定・公表されました。

本学の主な評価結果としては、①環境放射能研究所による国内外の研究活動、②COC「ふくしま未来学」等の震災復興関連の教育プログラム実施、③パリから東北の未来を世界に発信するイベント「東北復興祭＜環 WA＞in PARIS」開催等が評価されました。

中でも、平成 26 年 8 月にパリで開催した「東北復興祭＜環 WA＞in PARIS」は 15 万人の来場者を集め、多様なメディアによって日仏両国で報道され、原発事故による風評被害軽減につながったとして特筆されました。また、COC「ふくしま未来学」の震災・復興関連科目群も注目されました。この 2 件の取り組みは、国立大学法人評価委員会の評価結果（概要）でも事例紹介されました。

については、今回の評価結果を受けまして、学長談話を発表します。

### 【参考 URL】

文部科学省 第 2 期中期目標期間の業務実績評価結果

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/detail/1386169.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/detail/1386169.htm)

大学改革支援・学位授与機構 国立大学等の第 2 期中期目標期間における教育研究の状況の評価結果

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/kokuritsu/kekka\\_h28/](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kokuritsu/kekka_h28/)

（問い合わせ先）

福島大学 学長室（評価担当：加藤）

電 話：024-548-5200

Mail:hyouka@adb.fukushima-u.ac.jp

平成 29 年 6 月 7 日

## 学 長 談 話

国立大学法人福島大学

学 長 中 井 勝 己

平成 29 年 6 月 6 日、国立大学法人評価委員会総会が開催され、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度～27 年度）の業務実績に関する評価結果が確定しましたので、報告いたします。

### <本学の評価結果>

全体評価としては、①環境放射能研究所による国内外の研究機関と連携した研究活動、②震災復興関連の教育プログラム実施、③パリから東北の未来を世界に発信するイベント「東北復興祭<環WA>in PARIS」開催、④その他、業務運営面では教員人事の全学管理、外部資金獲得増、東北 7 大学の大規模災害時連携協定が評価されました。環境放射能研究所の研究活動は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取り組みとしても評価されました。

中でも、平成 26 年 8 月にパリで開催した「東北復興祭<環WA>in PARIS」は 15 万人の来場者を集め、多様なメディアによって日仏両国で報道され、原発事故による風評被害軽減につながったとして特筆されました。また、COC「ふくしま未来学」の震災・復興関連科目群も注目されました。この 2 件の取り組みは、別紙 1 のとおり第 2 期評価結果（概要）でも事例紹介されました。

一方で、過年度に複数回指摘された事項（平成 25、26 年度「寄附金の個人経理」）について、改善に向けた取組の継続を求められました。各項目の評価結果、特記事項等は別紙 2 のとおりです。

### <評価を受けて>

本学は、平成 23 年 3 月の東日本大震災と原発事故以来、被災者・被災地域の復興に関わってきました。今回、「優れた点」として評価された取り組みは、その多くが復興関連事業でもあり、放射能汚染という未知の災害に直面する福島県において本学が取り組んできた様々な事業について、一定の評価を得られたと考えています。一方、課題として指摘を受けた「寄附金の個人経理」については、教育研究費の不正使用防止のためのコンプライアンス教育を毎年受講義務化する等、再発防止に向けて取り組んでおります。評価された取り組みについては今後も継続するとともに、復興支援活動から学びを活かせる唯一の総合大学として、また、新たな地域社会の創造に貢献できる教育を重視した人材育成大学として、一層の発展を目指します。

### <今後に向けて>

第 3 期中期目標期間において、本学は以下 3 つの基本目標を掲げて「地域と共に歩む人材育成大学」としての使命を果たすとともに、21 世紀課題先進地における中核的学術拠点を目指します。

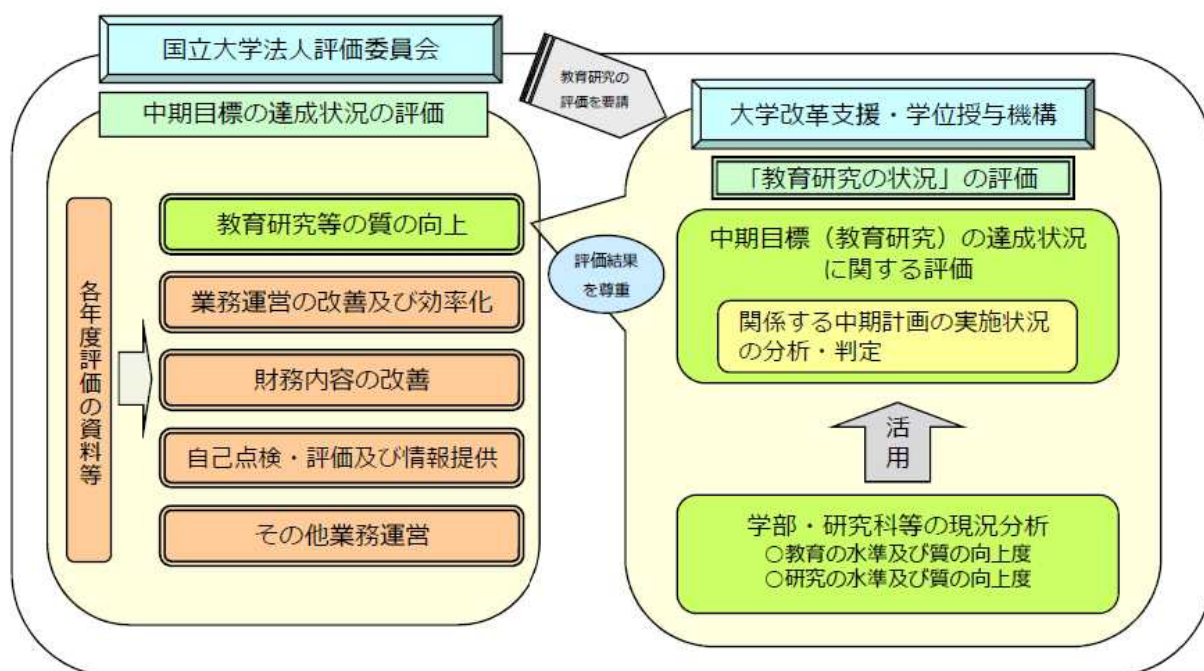
- ①能動的学習を重視し、グローバルな視点と感性を持ち地域課題に創造的に取り組む人材の育成
- ②地域の研究拠点として地域イノベーション推進、環境放射能動態の国際的研究推進と世界発信・地域還元
- ③被災者・被災地域の復興支援活動を通じて東日本大震災・原発事故から学び、新たな地域社会創造に貢献

平成 27 年 1 月には、震災後 10 年にあたる平成 33 年(2021 年)までに本学が目指すべき新たな方向性を示した学長の将来構想「中井プラン 2021」を、平成 29 年 1 月には「中井プラン 2021<改訂版>」を発表しました。特に震災後、食と農業に係る安全への問題から、福島県における農学系の専門的人材養成を望む声が高まっていることを受け、本学では①農学系教育研究組織の設置、②既存組織の見直し、③教育改革（入試改革を含む）を一体的に行う「三位一体の改革」の推進が必須と考えており、平成 31 年度の実現を目指しています。

今後も「定例記者会見」等の機会を通じて、本学の学生・教職員による様々な支援活動の情報を積極的に発信し、「顔の見える大学」として、市民・地域に一層開かれた大学を目指すとともに、大学が有する知的資源や産官民学連携の活動成果を積極的に福島県の復興に結び付けていきたいと考えています。

## 国立大学法人評価委員会 第2期評価結果（概要）から抜粋

## 第2期中期目標期間評価の全体像



## 情報提供：評定が「非常に優れている」の法人の取組例

## 福島大学

特筆される点

## ○ 全学が一体となった戦略的・効果的な情報発信

教員、職員、学生の3者がそれぞれの強みを生かした全学的な運営体制の下、パリから東北の魅力の世界に発信するイベント「東北復興祭〈環WA〉in PARIS」を平成26年度にパリ市内で開催し成功させている。開催にあたり、幅広いステークホルダーに効果的な情報を通じて必要資金の全額となる7,000万円を超える資金を調達するほか、現地イベント会社との業務委託契約等を通じた、開催地における効果的な広報によりイベント当日には約15万人の来場者を集客している。さらに、イベントの様子は多様なメディアによって日仏両国で報道され、原発事故による風評被害軽減につながったほか、イベントの運営を通じて協力団体や東北の教育機関とのネットワークが形成・強化されるなどの成果が得られており、評価できる。



## 教育：「優れた点」として取り上げられた取組例

## 福島大学

## ○ 震災・復興関連教育プログラムの推進

福島の復旧・復興に寄与できる人材育成のための震災・復興関連の教育プログラムとして、平成24年度から「水、土地の汚染と私たちの健康・生活」、「災害復興支援学」等の科目を開講している。特に、総合科目「原子力災害と地域」、「現代社会と環境」では、災害復興に携わる自治体職員や研究者等、多彩な分野の人材を招へいし講義を行っている。また、特修プログラム「ふくしま未来学」を平成26年度から実施し、震災以降に総合科目として新規開講した復旧・復興関連科目をコア科目として位置付け、全学において推進している。その結果、平成27年度には「ふくしま未来学入門」の履修登録者は362名となっているほか、地域実践学習としてフィールドワークを行う「むらの大学」では平成26年度と比べて受講生は約3倍の57名へ増加し、コア科目の総受講者数は1,500名を超えるなど、着実にプログラムが浸透している。



むらの大学（南相馬）：田植機を操作



第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（概要版）  
国立大学法人福島大学

<評価の標語について>

中期目標の達成状況は5段階で評定（下記1、2）、教育・研究の現況分析は4段階で評定（下記3）

中期目標の達成状況評価の標語（5段階評定）	教育・研究に係る現況分析の標語	
中期目標の達成状況が非常に優れている	水準（4段階評定）	質の向上度（4段階評定）
中期目標の達成状況が良好である	期待される水準を大きく上回る	大きく改善向上している
中期目標の達成状況がおおむね良好である	期待される水準を上回る	改善、向上している
中期目標の達成状況が不十分である	期待される水準にある	質を維持している
中期目標の達成状況のためには重大な改善事項がある	期待される水準を下回る	質を維持しているとは言えない

1. 教育研究等の質の向上の状況

(1) 教育に関する目標→「中期目標の達成状況が良好である」評価（5段階の上位2番目）

【優れた点 8件】

- ①教育体系の充実、4つのカリキュラム領域、自己デザイン領域の「教養演習」「キャリア形成論」開講
- ②地域に向く実習やフィールドワーク、4年一貫ゼミ等の少人数教育の充実
- ③「COC ふくしま未来学」の地域実践学習「むらの大学」等の震災・復興関連教育プログラム
- ④東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の単位認定（自己学習プログラム）
- ⑤副学長による高校訪問、学生による出身高校訪問「メッセージプロジェクト」等、志願者増の取組
- ⑥「福島大学災害ボランティアセンター」「スタ☆ふくプロジェクト」「FURE's（フレッツ）」等の学生ボランティア活動の活性化
- ⑦被災学生への入学料・授業料免除、震災義援金、しのぶ育英奨学金等による経済的支援
- ⑧キャリア相談員による進路相談、就職活動の交通費補助、東京セカンドキャンパス等の就職支援充実

【特色ある点 2件】

- ①産業技術総合研究所との協定に基づく大学院共生システム理工学研究科再生可能エネルギー教育
- ②学生の声を取り入れた教育改善のため、学生・教職員参加のFD 宿泊研修（他大学生・教員も参加）

(2) 研究に関する目標→「中期目標の達成状況がおおむね良好である」評価（5段階の上位3番目）

【優れた点 4件】

- ①科研費採択件数の増加、大学独自の重点研究分野（foR プロジェクト）の推進
- ②再生可能エネルギーの普及・産業集積等の地域課題解決に向けた研究、環境放射能研究所、福島第一原発の廃止措置に向けた研究（難分析核種の迅速分析手法）等、自治体・企業との連携研究
- ③大学院経済学研究科「原子力災害からの食の安全と農の再生に関する研究」の推進、自治体政策活用
- ④外部研究資金の獲得力向上を目指して研究振興課に改組、弁理士雇用等の研究支援体制の充実

(3) 社会連携・社会貢献、国際化等に関する目標→「中期目標の達成状況がおおむね良好である」評価（5段階の上位3番目）

【優れた点 4件】

- ①「COC ふくしま未来学」等、地域と連携した課題解決プログラムの展開
- ②自治体等との協定締結、うつくしまふくしま未来支援センター（FURE）等による復興活動の支援
- ③グローバル化推進方針の策定、留学生の受入れ・派遣の推進
- ④本学独自の短期留学プログラム「Fukushima Ambassadors Program」、海外拠点大学を指定し学生交流を推進

【特色ある点 1件】

- ①環境・エネルギー分野における中核的専門人材養成、地域版モデルカリキュラムの開発

(4) 附属学校に関する目標

【優れた点 2件】

- ①地域の教育関係者を構成メンバーに加えた「附属学校地域運営協議会」の設置
- ②東日本大震災時の附属学校の貢献（校庭線量低減の実地調査）

2. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標→「中期目標の達成状況が良好である」評価（5段階の上位2番目）

【優れた点 1件】

- ①給与決定の柔軟化による外国人・実務家・民間企業等から実践的な人材の確保、教員人事の全学管理（H27 教員人事戦略室→H28 教育研究院へ）

(2) 財務内容の改善に関する目標→「中期目標の達成状況が良好である」評価（5段階の上位2番目）

【優れた点 1件】

- ①震災後の復興課題をテーマとする研究の増、FURE・大学院共生システム理工学研究科再エネ分野の設置等、地域社会のニーズに応える教育研究組織整備による外部資金獲得、研究支援体制の充実

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標→「中期目標の達成状況が非常に優れている」評価（5段階の最上位）

【特筆される点 1件】

- ①パリから東北の未来を世界に発信するイベント「東北復興祭<環WA>in PARIS」を開催し15万人来場、多様なメディアにより日仏両国で報道され風評被害を軽減（H26年8月）

【優れた点 1件】

- ①副学長による高校訪問や在学生による出身高校訪問により、本学の修学環境の現状を積極的に発信し志願者増につながる等、戦略的な入試広報活動を行い、震災による不利な状況を克服

(4) その他業務運営に関する重要目標→「中期目標の達成状況がおおむね良好である」評価（5段階の上位3番目）

【優れた点 1件】

- ①安全・危機管理情報の学内共有、構内除染・モニタリング、東北7大学の大規模災害時連携協定

【改善すべき点 1件】

- ①平成25～26年度評価において課題として指摘を受けた「寄附金の個人経理」について、改善に向けた取組は行われているものの、引き続き再発防止に向けた取組みの実施が必要

(5) 戦略性が高く意欲的な目標・計画の取組状況

【取組状況 1件】

- ①広く世界に開かれ、英知を結集した環境放射能動態に関する先端的研究拠点として環境放射能研究所を設置、国内外研究機関と連携し自然環境をフィールドとした調査研究

3. 学部・研究科等の教育及び研究に係る現況分析結果

教育・研究の水準→全て「期待される水準を上回る」又は「期待される水準にある」評価（4段階で上位2又は3番目）

質の向上度 →全て「改善、向上している」又は「質を維持している」評価（4段階で上位2又は3番目）

【卓越した研究業績 1件】

- ①大学院経済学研究科の「原子力災害からの食の安全と農の再生に関する研究」は、土壌測定と汚染マップの可視化に関する研究成果を広く社会に公表し、日本協同組合学会実践賞を受賞

評価結果の詳細は、文部科学省 及び 大学改革支援・学位授与機構ホームページをご覧ください。

◎文部科学省 第2期中期目標期間の業務実績評価結果

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/detail/1386169.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/detail/1386169.htm)

◎大学改革支援・学位授与機構 国立大学等の第2期中期目標期間における教育研究の状況の評価結果

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/kokuritsu/kekka\\_h28/](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kokuritsu/kekka_h28/)